

妖しの女性の物語



古座の磯には、いしなげんじょという妖怪が住んでいて、磯近くを通る船に向かって大石小石を投げるそうです。

また、霧の深い夜に、突然大きな岩が崩れ落ちるような音をたてることがあります。それもいしなげんじょの仕業と言われています。

この妖怪は大変な美女で、沖を行く船を手で招いて沈めたと言われています。

参考 おしえてわかやま妖怪怪編
文 和田寛 わかやま絵本の会

熊野のローレライ
いしなげんじょ



●荒船海岸
いしなげんじょが住んでいた磯は、串本町古座の磯と伝えられている。「荒船海岸」は名前のとおり、その雰囲気かたどよう磯。
〒串本町田原地内



「あらふねリゾート」
荒船海岸にある国民宿舎。荒船海岸から採れた新鮮な伊勢海老やあわび等旬の魚介類をメインとした料理が食べられる。また、目の前には美しい海水浴場が広がり、夏場は海水浴も楽しめる。
〒串本町田原 2518 ☎0735-74-0124

寄り道ぐるめ

妖しの女性の物語

龍神山麓に親も嫁もない樵が住んでいました。ある日、樵は龍神山で羽衣を見つけ家に持ち帰りました。夜になり、美しい娘が樵の家の戸を叩き「池で水浴びしたとき羽衣がなくなりましただ。羽衣の香りがこの家からします。羽衣がないと天に帰れません。返して下さい。」と言いました。樵は「嫁になるなら返す。」と答え、天女は仕方なく樵の嫁となりました。

しかし、樵は羽衣を返さないまま数年たち、天女は二人の子を生みました。ある日、樵が肩籠の整とんをしていると羽衣が出てきました。天女はそれに気づき羽衣を手取る、二人の子を抱えて空に舞い上がり、樵は一人残されました。

参考 紀州ばなし 山本真理子著 名著出版

龍神山の羽衣伝説
天女



●龍神宮
登山道を約30分歩きたどり着く龍神山頂近くの神社。天気のいい日は景色も良くハイキングが楽しめる。神社横の池は天女が水浴びをしたとされる。
〒田辺市上秋津地内



●天女が水浴びした池



「秋津野ガärten」
龍神宮を守っている上秋津地区住民が中心となって設立した農業交流施設。廃校を利用した木造建物で、中には農家レストランもあり、スローフードを楽しめる。
〒田辺市上秋津 4558-8 ☎0739-35-1199



寄り道ぐるめ